

ONSA ニュース

No.21-1

平成23年度通常総会を終えて	1
第44回放射線科学研究会より	3
第47回UV/E B研究会より	9
見学会より(奈良県立橿原考古学研究所)	
	12
お知らせ	14

社団法人 大阪ニュークリアサイエンス協会
〒542-0081 大阪市中央区南船場3-3-27
TEL 06-6282-3350, FAX:06-6282-3351
e-mail: onsa-ofc@nifty.com
URL: <http://homepage2.nifty.com/onsa/>
発行: 平成23年7月

平成23年度通常総会を終えて

事務局長 藪下 延樹

5月24日大阪大学中之島センターにおいて平成23年度 ONSA 通常総会を開催致しました。出席できなかった会員の皆様に、通常総会及び ONSA 賞授与式・交流会の内容を簡単に紹介します。今年度の通常総会は ONSA が新公益法人改革制度における特例民法法人から「一般社団法人」への移行を議決する重要な総会となりました。

通常総会は、大嶋専務理事の開会宣言を皮切りに、豊松秀己会長のあいさつ、本総会への参加者数の確認（正会員 71 名で委任状を含めて出席者 55 名）と進み、議長に豊松秀己会長を選出した。続いて、豊松秀己議長の進行で以下の議事が進められた。

議事署名人の選出：遠藤睦雄、宮地秀和氏が指名・委嘱された。

第1号議案・平成22年度事業実施状況と収支決算等（案）について藪下事務局長と小南局長補佐から以下の説明があり質問なく承認された。

a. 会員数の変動：-3（昨年度実績比 法人会員 ± 0、個人会員-3、賛助会員 ± 0）

b. 広報活動：

第27回「みんなのくらしと放射線展」（他の協会等の共催事業）は、例年通り4日間扇町キッズパークで開催された。参加者数は15,975名で昨年比+711名で、ほぼ例年通りの参加者密度であった。

ONSA ニュースの発刊 3回（昨年より1回減）であるが、電子媒体による速報を随時発行した。

ONSA ホームページの閲覧数は年間約7,000件で順調に伸びている。閲覧者数は平均値で、福島第1原発事故以前は15人/日であったが、原発事故直後30人/日、4月以降も19人/日をキープしている。

c. 技術研究会等開催事業：（ONSA 単独事業）

放射線科学研究会3回、UV/E B研究会3回、放射線利用総合シンポジウム1回、見学会2回を開催。計9件、参加者数延べ285名（昨年度実績比 -14名）。

d. 研究調査事業（受託研究）等：2件（例年通り）

e. 大阪府立大学コバルト 60 ガンマ線照射業務への技術者の派遣

大阪府立大学との受託契約に基づき、協会職員3名（照射業務担当1名、受付業務担当延べ2名）を派遣した。（ほぼ例年通り）

f. 収入合計：23,164,643 円（予算比+622,643 円）

g. 支出合計：22,063,518 円（予算比-469,964 円）

h. 当期収支差額：+1,101,125 円（予算比+1,092,607 円）

i. シンポジウム開催助成金や原発事故に伴う放射能測定業務等収入が貢献して当初予算より多い黒字となった。

j. 支出計上した“25周年記念事業積立金”

100万円/年は4年目となった。

k. 寄付収入が200万円あり、「ONSA 賞特定目的正味財産」を創設して組み入れ、一部を支出した。

監査結果の報告：西田監事から平成22年度の事業及び会計につき監査をし、適正との報告を得た。

第2号議案・新公益法人制度対応の件（案）

について藪下事務局長から説明があった。

新公益法人改革制度の法の要求内容説明。

ONSA に同改革を適用した場合の「公益社団法人」と「一般社団法人」の利点、不利な点の説明。

ONSA の現在の体質からは「一般社団法人」に移行することが得策と考えられる。

ONSA が「一般社団法人」を選択した場合の、「非営利型法人」と「その他の法人」の利点、不利な点の説明。ONSA は「非営利型法人」が得策と考えられる。

「非営利型法人」は更に、「非営利が徹底された法人」と「共益的活動を目的とする法人」に分けられる。

結論的に、ONSA は「一般社団法人・非営利が徹底された法人」が最適と考えられる。

移行申請のタイムスケジュール案

23年秋：企画運営委員会で定款案、新制度の最初の役員案の検討

24年4月頃：企画運営委員会で定款案、新制度の最初の役員案の決定

24年5月：総会で定款案、新制度の最初の役員を選任。行政庁へ移行申請書提出。

24年11月：移行認定、登記して確定。

第2号議案は質問なく承認された。

第3号議案・平成23年度事業計画（案）と予算書（案）について藪下事務局長と小南局長補佐から説明があった。内容は「25周年記念事業積立金」がほぼ目的額を達成したので例年の半額に減額したが、受託料が減額されたために縮小予算となっている。

a. 事業計画内容は、会員数の減少も見込まれるので、縮小均衡型で、b. のガンマ線照射事業以

外は、ほぼ例年通りである。

b. 事業収入の低下はONSAの最大収入源の受託のガンマ線照射事業が、平成23年度では約100万円の受託料収入の低下が見込まれることによる。

c. 支出計上した“25周年記念事業積立金”50万円/年は5年目となり、積立額は450万円となる見込。

d. “ONSA 賞”は今年度68万円の予算執行を計画している。その結果、次年度への繰り越しは約129万円となる見込。

e. 収入合計：21,955,100円（前年予算比-586,900円）

f. 支出合計：21,450,700円（前年予算比-402,782円）

g. 当期収支差額：504,400円（前年予算比-184,118円）

第3号議案について、質問はなく承認された。

報告事項・ONSA 賞に関する件（案）について大嶋専務理事から説明があった。

22年度応募・推薦件数4件について、選考委員会が候補者を選定して、研究発表と質疑応答を実施した結果下記を推薦した。

基礎研究部門 瀬戸 誠（京都大学原子炉実験所・教授）

「放射光メスバウアー吸収分光法の研究」

ONSA 賞授与式。

豊松秀己会長から瀬戸 誠（京都大学原子炉実験所・教授）氏に表彰状と副賞が授与された。

以上で、通常総会の議事が予定通りに終了した。

引き続き、別室にて、参加者ほぼ全員約50名による交流会が開催された。

交流会は、豊松秀己会長の開会の挨拶に続いて、奥田修一教授（大阪府立大学地域連携研究機構・放射線研究センター長）の乾杯の音頭で始まり、有益な懇親会を滞りなく終了することが出来ました。これも、偏に会員各位のご協力の賜物と、厚く御礼申し上げます。